

## テーマ 3

「避難所の運営を円滑に進めるには」  
研修教材（案）

## 【本教材について】

- テーマ： 3. 避難所の運営を円滑に進めるには
- 単元名： 1 避難所開設・運営の流れと発生する課題
- 所要時間： 60分程度
- 準備：
  1. ワークで使用する資料とボールペン1本を参加者に配布して下さい。
  2. 適宜、スライドの追加や変更をすることができます。参加者の特性(自主防災組織等の会長が多いか、在職期間が長いかなど)に応じて、内容のカスタマイズを検討することで、より良い研修効果が期待できます。
  3. 実際に研修を行う前に、何人かのグループを作り、練習し合う場を設けることもよい研修とするうえで効果的です。
  4. 避難所、要配慮者支援、ボランティアについて、自治体による支援メニューを紹介するスライドを追加する等、カスタマイズを検討するとよりよい効果が期待できます。

追記

追記

自主防災組織等のリーダー育成研修

避難所の運営を円滑に進めるには

避難所開設・運営の流れと  
発生する課題

## ●学習目標

避難所を開設、運営するために最低限必要な知識  
やその課題と対策を理解する

### <目次>

- 災害時にとるべき行動 P. 4～8
- 避難所の開設・運営 P. 9～27

# 1. 災害時にとるべき行動

---

# 災害発生前後にとるべき行動(主に自助・共助)

修正



大雨・台風・竜巻等の恐れ

【住民等が取るべき行動】

自助 気象・避難等の情報収集

- ・気象情報や自治体からの避難情報等の情報の収集



自助  
共助  
公助  
指定緊急避難場所等への避難・避難支援

- ・より安全な場所(指定緊急避難場所や近隣の安全な場所等)への避難
- ・避難行動要支援者の避難を支援

洪水・浸水・土砂災害・高潮等の発生

共助  
公助  
指定避難所での避難生活・在宅避難者支援

- ・避難生活が長期化する場合、避難所運営
- ・在宅避難者で食料や救援物資等の支援が必要な方への支援

# 災害発生前後にとるべき行動(主に自助・共助)

修正



**自助** 身の安全の確保・避難

【住民等が取るべき行動】

- ・身を守る行動、火の始末、自宅の初期消火、家族の安否確認



**共助** 安否確認・被害情報の収集・消火・救出・救護など

・安全第一



**共助** 避難誘導・避難支援・二次被害の防止など

- ・避難場所等への避難
- ・避難行動要支援者の避難支援等
- ・避難時にはブレーカーを切る、ガスを止める

**共助** 指定避難所での避難生活・  
**公助** 在宅避難者支援

- ・避難生活が長期化する場合、指定避難所の運営
- ・在宅避難者で食料や救援物資等の支援が必要な方への支援

# 避難をする場所について

「避難所」と「避難場所」の役割の違いを理解しましょう

## 指定緊急避難場所

「火災が迫っている」、「建物が倒壊しそう」といった状況のとき、いのちを守るために一時的に避難する安全な場所のこと

## 指定避難所

大地震の揺れ等で自宅が倒壊・焼失等をしてしまい、生活する場所がなくなってしまった方が、一定期間の生活を送る施設のこと

なお、避難者の状況によっては福祉避難所に移送することがある

修正

追記

### ※福祉避難所

指定避難所では避難生活が困難な、高齢者や障害者、妊婦など、災害時に援護が必要な人たち(要援護者)に配慮した市町村指定の避難施設。福祉避難所は必要に応じて開設される(はじめから福祉避難所が指定避難所として開設されるのではない)。

# 1. 災害時にとるべき行動

## - まとめ -

- 災害時にとるべき行動、避難所と避難場所の役割の違いを理解し、適切な行動をとりましょう

## 2. 避難所の開設・運営

---

# ○避難所運営の担い手

避難所生活の「質の向上」のため、自主防災組織等が中心となり、市区町村と協力して運営を行いましょ

過去の災害では、自治体職員が避難所対応で手一杯になり、他の災害対応業務の実施に支障が生じた

追記

## ●自主防災組織等

修正

避難所運営の中心的役割を担うことが期待されている(各業務の主担当、女性の参画が重要)

## ●市区町村からの派遣職員

災害対策本部との情報収集・伝達  
ボランティアの調整

## ●避難者

避難所運営への自主的な協力

## ●施設管理者

施設管理・維持



# 避難所の開設・運営の流れ

避難所は、使用可否の判断の後、開設決定の判断がされてから、運営されます

## 避難所としての使用可否の判断

### ① 避難所施設の開錠

【主に行政】(市区町村の開錠担当者や施設管理者)

- 施設を開錠後、施設の安全確認を行う
- 市区町村の災害対策本部と連携し、開設の可否を判断する

### ② 施設内外の安全点検

### ③ 避難所の開設決定

### ④ 避難者の受け入れ

- **スペースの確保**・避難者の誘導・受け入れ

### ⑤ 避難者の把握

- **避難者名簿の作成**
- 避難者の状況を把握し、備蓄物資を配布

### ⑥ 備蓄物資の配布

### ⑦ 運営の本格化

- 運営体制の確立・避難所機能の確保(トイレ・スペース等)
- **生活ルール**の設定・多様な被災者への対応・健康管理・衛生管理など質の向上
- 在宅避難者への物資・情報等の提供
- 災害ボランティアを活用した運営

協力

行政

自主防災  
組織等  
避難者

※上記の役割は参考であり、自治体等により異なります。

# ■ ■ 市の避難所開設の準備

避難所となる施設を開錠した後に、安全点検を行い、使用可能な場合は、避難所として開設されます

赤字・赤枠箇所(2箇所)について、研修を行う地域の情報に置き換えて下さい。

## 施設の開錠

- ・ 市区町村職員・施設管理者が開錠の担当者となる  
(日中・夜間それぞれの担当が必要)
- ・ この時点で避難者は受け入れず、まずは避難所が使えるかどうか判断する

## 施設の安全性の確認

- ・ 施設の構造被害・内部被害の目視確認を行い、危険箇所は「立入禁止」「危険・さわるな」といった掲示や、トラロープ・カラーコーンといったものも活用して立入禁止を明示する

### 【確認箇所の例】

建物周辺(火災、地すべり等)、構造被害(傾斜、柱や床、壁等)、内部被害(天井・窓ガラス・散乱物等)

# 市の避難所開設の準備

全国には、チェックリストを用いて自主防災組織等で安全確認を行えるよう訓練に取り組んでいる地域もあります

## チェックリストの例

項目	緊急対応	確認
1. 避難所の開設		
避難者による自主開錠	・建物内にいる避難者をまとめ、建物の安全確認をする	<input type="checkbox"/>
2. 建物の安全確認	・建物は傾いていない	<input type="checkbox"/>
	・火事は発生していないか、ガス漏れはないか	<input type="checkbox"/>

研修を行う地域で、安全確認のチェックリストや項目が決まっている場合は、その地域の情報に置き換えて下さい。

6. ライフラインの確認		
	・電気が使えるか	<input type="checkbox"/>
	・放送設備が使用できるか	<input type="checkbox"/>
	・無線が使用できるか	<input type="checkbox"/>
	・上水道が使えるか	<input type="checkbox"/>
	・電話が使えるか	<input type="checkbox"/>
	・FAXが使えるか	<input type="checkbox"/>
7. 非常用設備及び物資の確認	・水、食料、生活物資のは備蓄されているか。	<input type="checkbox"/>
本部への要請事項の整理	・応援職員は必要か	<input type="checkbox"/>

参考：東京都「避難所開設チェックリスト」より引用

# 大規模災害時の避難所状況



事例1)東日本大震災  
2011年(平成23年)3月11日

写真:内閣府ホームページ



事例2)東日本大震災  
2011年(平成23年)3月11日

写真:国土交通省「震災伝承館」



事例3)平成28年熊本地震(夜)  
2016年(平成28年)4月14日以降

写真:内閣府「熊本地震保健士派遣記録」



事例4)平成28年熊本地震(昼)  
2016年(平成28年)4月14日以降

写真:内閣府「熊本地震保健士派遣記録」

避難所では、大勢の方々が過ごすことや被災状況により、様々なことが起こります。避難所で起こる困りごとをイメージしてみましよう。



# こんなとき、どうする？

修正

あなたが運営者の立場だったら、どうするか考えてみましょう！

【問い】1分

- 避難者の中の、赤ちゃんのお母さん達から、「授乳やおムツを替えたりしたいが、他の人に見えない場所を使わせてくれないか？」と相談されました。あなたはどうか対応しますか？

- A. 体育館の一部にスペースを作る
- B. 小さな部屋を使ってもらおう
- C. その他



# こんなとき、どうする？

## 【グループ検討】5分

- グループで、自分ならどうするか、それはなぜか、よりよい方法はないか、について意見を交換してみましよう。



# 避難所の空間の確保

避難所利用者が生活する場所には、様々な空間が必要になります

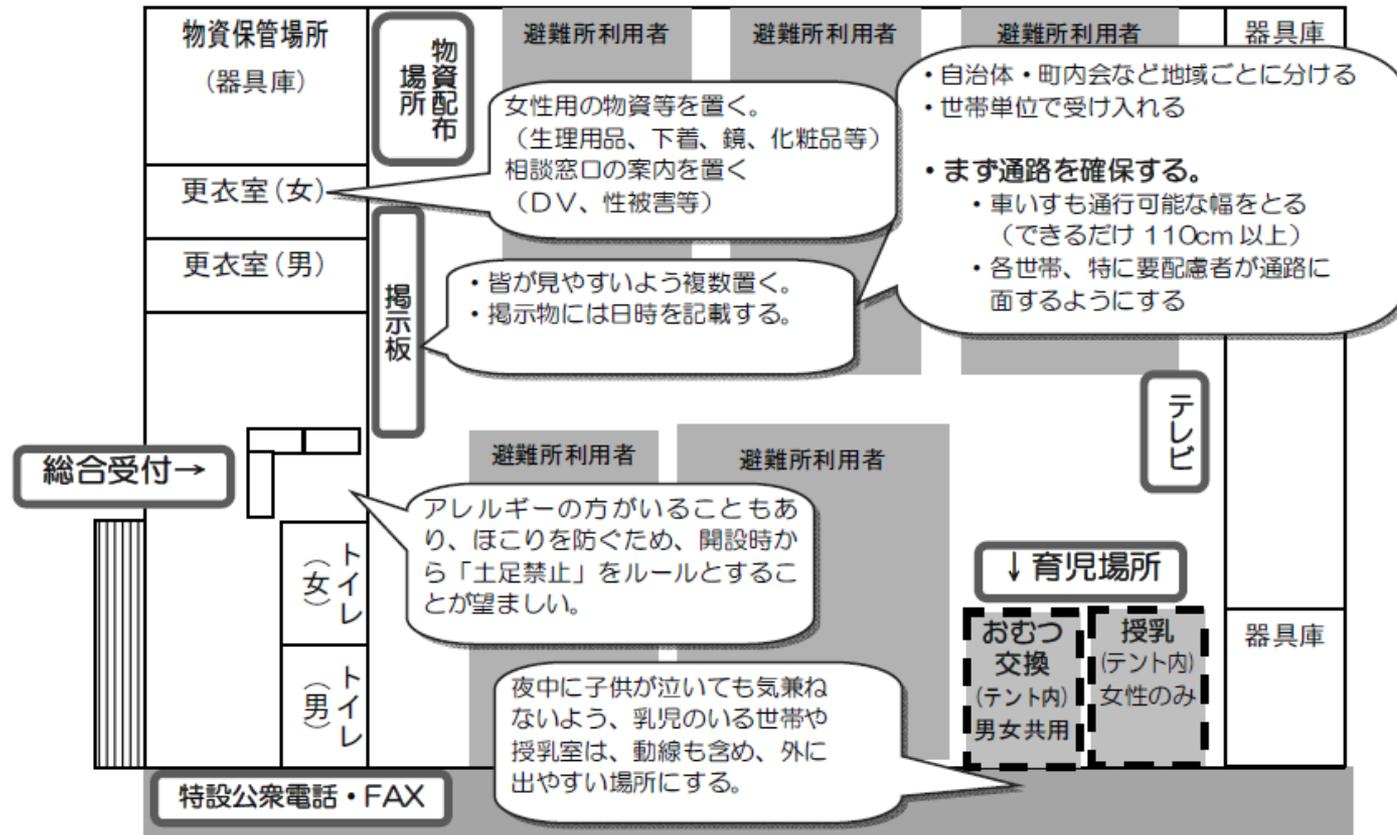


図. 避難所レイアウト例(避難所利用者が生活する場所)



# こんなとき、どうする？

修正

あなたが運営者の立場だったら、どうするか考えてみましょう！

【問い】1分

- ・ 避難所には、耳や目が不自由な方など、様々な方がこられる可能性があります。そのような方には支援が必要ですが、外見だけで分からないことも多く、どのようなことに困るのかも様々です。どのように把握したらいいのでしょうか？

- A. 一人ずつ聞く
- B. 自己申告してもらおう
- C. その他



# こんなとき、どうする？

## 【グループ検討】5分

- グループで、自分ならどうするか、それはなぜか、よりよい方法はないか、について意見を交換してみましよう。



# 避難者名簿の作成

避難生活開始後、世帯ごとに詳細な名簿を作成しましょう

## 避難者名簿の活用

- どのような人が避難しているか把握し、**避難者の特性に応じた支援を実施**するために活用
- 避難者の人数や状況を把握して、**物資等(水・食料・生活必需品等)**を配布する
- 避難者の職能や特技等を把握して、**避難所運営に積極的に協力**してもらう人を確保する

## ポイント

- きめ細やかな支援を実現するため、**名簿にはできるだけ細かく記載**してもらおう（氏名、生年月日、性別、住所、支援の必要性の有無等（健康状態、保育・介護の要否など）、職能・特技など）
- **個人情報のため、情報管理を徹底**する
- 受け入れ時は、代表者氏名や人数、配慮が必要かなどを把握する

# 避難者名簿の項目例

避難者名簿の活用を踏まえ、あらかじめ避難名簿の様式を整えておきましょう

## 避難者名簿の項目例

入所年月日	自宅の被害状況
氏名(世帯主、家族)	特に配慮が必要なこと
年齢(世帯主、家族)	運営に協力できること (特技・免許等)
性別(世帯主、家族)	安否確認への対応 (公開・非公開)
住所	自家用車の駐車の有無 (自家用車の情報)
電話番号	ペットの状況(同伴希望等)



# こんなとき、どうする？

修正

あなたが運営者の立場だったら、どうするか考えてみましょう！

【問い】1分

- ・ 災害の規模が大きく、避難所での生活が長引きそうです。夜の消灯時間を22時としていましたが、幼稚園のお子さんのお母さんたちから、「子どもが21時頃眠たくなるが、明るくて寝れないので、何とかならないか？」と相談されました。どのように対応しますか？

- A. 消灯時間を21時にする
- B. 我慢してもらおう
- C. その他



# こんなとき、どうする？

## 【グループ検討】5分

- グループで、自分ならどうするか、それはなぜか、よりよい方法はないか、について意見を交換してみましよう。



# 避難生活上のルールの設定と周知

知らない方と共同生活を送るためには、ルールを設けて共通認識を持つことが大切です

## 避難所生活に必要なルール(例)

### ●**避難所全体共通**のルール記載項目(例)

避難所の運営主体／避難者名簿登録／土足の可否／部屋の使用可否／食料配布／喫煙等

### ●**共同生活上**のルール(例)

生活時間(起床・消灯・食事・放送等)／清掃／洗濯／ごみ処理／プライバシーの保護 等

### ●**その他必要とされるルール(例)**

トイレの使用(使用時・清掃時)／火気使用／夜間の警備体制について／ペットの飼育 等

修正

#### ※人間関係づくりの必要性

避難生活の心身の健康には人間関係づくりも必要です。人と人のつながりが強い方と比較して、つながりが弱い方は、睡眠障害及び心理的苦痛のリスクが約5倍高くなる可能性が示唆されている

# 避難所生活上の課題の発生

避難所は様々な人達との集団生活のため、色々な課題が発生し、その対応が必要となります

## 共通の課題

- **生活空間に制限**が生じる  
プライバシーの確保が難しい、ライフライン(トイレ・浴室など)が使えないなど
- **衛生環境が著しく悪化**する  
トイレ環境の悪化、清掃が行き届かないなど
- **健康問題**が生じる  
エコノミークラス症候群、生活不活発病、感染症など
- **個別対応に限界**がある  
配慮が必要な方への対応、ペットへの対応など
- **女性・くらし目線の配慮**が行き届かない  
女性特有に配慮すべきことへの対応、性別固定役割、DV被害など

修正

日頃から課題への対応を考えておきましょう。地域の状況を踏まえて、必要な取り決めを作るなどの取組みを進めましょう。

## 2. 避難所の開設・運営 - まとめ -

- 避難所運営の中心的役割を担うために、安全確認やルールの設定等の必要性を理解しましょう

## まとめ

- 災害時にとるべき行動、避難所と避難場所の役割の違いを理解し、適切な行動をとりましょう
- 避難所運営の中心的役割を担うために、安全確認やルールの設定等の必要性を理解しましょう

## 【本教材について】

- テーマ： 3. 避難所の運営を円滑に進めるには
- 単元名： 2 要配慮者への支援と災害ボランティアの受入
- 所要時間： 60分程度
- 準備：
  1. ワークで使用する資料とボールペン1本を参加者に配布して下さい。 追記
  2. 適宜、スライドの追加や変更をすることができます。参加者の特性(自主防災組織等の会長が多いか、在職期間が長いかなど)に応じて、内容のカスタマイズを検討することで、より良い研修効果が期待できます。
  3. 実際に研修を行う前に、何人かのグループを作り、練習し合う場を設けることもよい研修とするうえで効果的です。 追記
  4. 避難所、要配慮者支援、ボランティアについて、自治体による支援メニューを紹介するスライドを追加する等、カスタマイズを検討するとよりよい効果が期待できます。

自主防災組織等のリーダー育成研修

避難所の運営を円滑に進めるには

要配慮者への支援と  
災害ボランティアの受入

## ●学習目標

避難所を円滑に運営するために必要な要配慮者への支援や災害ボランティアの受入について理解する

### <目次>

- 要配慮者の地域ぐるみでの支援体制 P. 4～26
- 災害ボランティアの受入、被災地への応援協力 P.27～30

# 1. 要配慮者の地域ぐるみでの支援体制

---

# 多様な避難者と要配慮者とは

避難所には様々な避難者があり、その中でも特に配慮を要する「要配慮者」がいます



# 要配慮者への支援の必要

- これまでの災害では・・・  
高齢者などを中心に、逃げ遅れによって被災したり、過酷な避難所生活で病気にかかったりした
- このような**要配慮者**への避難の支援や避難所生活での配慮などは、その人の身近な存在である隣近所同士で助け合うことが基本
- 平常時に地域で支援体制をつくっておくことが必要

# 災害時における要配慮者が抱える困難の例

災害時に要配慮者は様々な困難を抱えることになります

要配慮者	対応の実態
避難所で生活している 高齢者	冬のような寒さから <u>体力が著しく低下</u> したり、環境の激変で <u>認知症状が悪化</u> した方がいた
身体に障がいを持つ方	目や耳が不自由な方は <u>情報を得にくい</u> 。車いす等の方は <u>トイレに行くのも大変だった</u>
小さな子供がいる家庭	意見をなかなか言いづらいついて感じていたため、 <u>目安箱などを設置</u> して配慮した
服薬のある方	薬を <u>いつどのくらい飲む</u> のか、 <u>どこの病院に通院</u> しているのかなどを把握し対応することが大変だった
外国人の避難者	言語の違いから、 <u>間違ったニュアンスで伝わってしまう</u> ことがあった

参考: 社会福祉法人東京都社会福祉協議会「東日本大震災 高齢者、障害者、子どもを支えた人たち」を基に要約

参考: 社会福祉法人東京都社会福祉協議会「『災害に強い福祉』要配慮者支援活動事例集」を基に要約

**要配慮者の方が  
避難生活において  
どんなことに困るのか  
考えてみましょう**

複数のワークショップを用意しています。研修を行う地域の事情に合うワークショップを選んで下さい(60分の単元の場合は3つが標準的)。

車いすの方は、避難所での生活でどんなことに困るでしょうか。  
また、どんな支援が必要でしょうか。



# 避難所の運営をイメージしましょう

## 【グループ検討】10分

- 避難所での生活において、車いすの方はどんなことに困るでしょうか。また、どんな支援が必要になるでしょうか。グループで話し合ってみましょう。



# 車いすの避難者への対応

## 避難所で困ること

- 避難所内の移動やトイレが難しい場合がある
- 床面に座ることが難しい場合がある
- 脊髄を損傷している人は、感覚が無い上に体温調節が難しい場合がある

## 対応方法と連携・協力先(例)

- 居住スペースの通路側にスペースを確保し、移動距離を短くする
- トイレなどの介助は、未経験者や力が十分でない人が行くと事故につながる恐れがあるため、家族や経験者の協力を得ることが重要
- 避難生活が長期化する場合、福祉避難所への移送やホームヘルパー、介護福祉士、介護支援専門員などと連携・協力する

複数のワークショップを用意しています。研修を行う地域の事情に合うワークショップを選んで下さい(60分の単元の場合は3つが標準的)。

赤ちゃんを抱えた母親の方は、避難所での生活で、どんなことに困るでしょうか。また、どんな支援が必要でしょうか。



# 避難所の運営をイメージしましょう

## 【グループ検討】10分

- 避難所での生活において、赤ちゃんを抱えた母親の方はどんなことに困るでしょうか。また、どんな支援が必要になるでしょうか。グループで話し合ってみましょう。



# 乳幼児を持つ保護者への対応

## 避難所で困ること

- **プライバシーを守れる**場所が必要(授乳室、おむつ交換室)
- **哺乳瓶の消毒**が困難な場合がある
- 乳児のための**必需品不足**(粉ミルク、おむつ、おしりふきなど)

## 対応方法と連携・協力先(例)

- 授乳スペースやおむつ交換スペース等を確保する
- 哺乳瓶の煮沸消毒や薬液消毒ができないときは、使い捨ての紙コップなどを活用して少しずつ飲ませる(硬水は避ける)
- おむつが無い場合は、タオルを代用する
- 避難生活が長期化する場合、医療機関関係者、保健師、保育士などと連携・協力する

複数のワークショップを用意しています。研修を行う地域の事情に合うワークショップを選んで下さい(60分の単元の場合は3つが標準的)。

日本語が話せない外国人の方は、避難所での生活で、どんなことに困るでしょうか。また、どんな支援が必要でしょうか。



# 避難所の運営をイメージしましょう

## 【グループ検討】10分

- 避難所での生活において、日本語が話せない外国人の方はどんなことに困るでしょうか。また、どんな支援が必要になるでしょうか。グループで話し合ってみましょう。



# 日本語が話せない外国人への対応

## 避難所で困ること

- 言葉の壁で情報が得られないため、ルールの理解など**意思疎通が難しい**
- **宗教や習慣の違い**で誤解が生じることがある

## 対応方法と連携・協力先(例)

- スマートフォンなどの**翻訳機能**を活用する
- やさしい日本語やボディランゲージを活用し**情報提供**する
- 看板や張り紙はイラストや図を中心に**分かりやすく表示**する
- 宗教上食べられない食材などを本人に**確認**して対応する
- 通訳ができる方(避難者、ボランティアなど)や日本語が理解できる外国人の避難者などと**協力・連携**する

複数のワークショップを用意しています。研修を行う地域の事情に合うワークショップを選んで下さい(60分の単元の場合は3つが標準的)。

視覚障がい者の方は、避難所での生活で、どんなことに困るでしょうか。また、どんな支援が必要でしょうか。



# 避難所の運営をイメージしましょう

## 【グループ検討】10分

- 避難所での生活において、視覚障がい者の方にはどんなことに困るでしょうか。また、どんな支援が必要になるでしょうか。グループで話し合ってみましょう。



# 視覚障がい者の避難者への対応

## 避難所で困ること

- 視覚による状況判断ができない為、避難所内での各所への移動が困難
- 掲示物や案内板などから情報収集することができない

## 対応方法と連携・協力先(例)

- 壁伝いにトイレなどに行くことができるような居住スペースの確保
- 順路に手すりなどを設け、移動経路上に障害物を置かない
- 放送等による情報伝達
- 驚かせることのないよう、正面から話しかける配慮
- 点字タイプライターの手配
- パソコンなどで読上機能を使えるように資料のテキスト形式データを用意

複数のワークショップを用意しています。研修を行う地域の事情に合うワークショップを選んで下さい(60分の単元の場合は3つが標準的)。

聴覚障がい者の方は、避難所での生活で、どんなことに困るでしょうか。また、どんな支援が必要でしょうか。



# 避難所の運営をイメージしましょう

## 【グループ検討】10分

- 避難所での生活において、聴覚障がい者の方にはどんなことに困るでしょうか。また、どんな支援が必要になるでしょうか。グループで話し合ってみましょう。



# 聴覚障がい者の避難者への対応

## 避難所で困ること

- 音声による情報が伝わらない
- 外見からは障害があることが分からない
- コミュニケーションがとりづらい為、ストレスを抱えやすい

## 対応方法と連携・協力先(例)

- 手話通訳者などの確保
- 必要な情報は、リーフレットなどの印刷物や書き物によって伝達
- 積極的なコミュニケーションをとるよう配慮する
- 支援者の識別表示(帽子・ジャンバー等)を用意
- 「手話通訳・要約筆記が必要な人はいますか」などの張り紙を用意

# 要配慮者ごとの配慮のポイント

要配慮者のそれぞれの特性に応じた、配慮や支援が必要になります

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮/支援(例)
肢体不自由者	避難所を安全に利用できない等	介助者や支援者の確保等
難病患者	特殊機器/受診を要する等	常時使用する医療機器や薬の調達等
視覚障がい者	目視による状況把握ができない等	手すりの設置、障害物の撤去等
聴覚障がい者	音声による情報が伝わらない等	印刷物で伝達、手話通訳者の確保等
高齢者	体調を崩しやすい等	優先的な安否確認と避難誘導等
妊産婦や乳幼児	素早い行動ができない、授乳等	介助者や支援者の確保等
外国人	コミュニケーションが困難等	ピクトグラムの活用、通訳の確保等
LGBT	トイレ・物資(衣類等)が男女別	多目的トイレの準備、サイズ別で分類

# 配慮が必要な方への対応

配慮が必要な方には、健康状態や困っていることなど、本人や家族から丁寧に話を聞き、必要な支援を行いましょう

## 配慮が必要な方への対応

### ● まずヒアリングを実施

ヒアリング後に実施

- 段差の解消や外国語による避難所内情報の提供など、環境整備の検討
- 避難者同士の見守り体制の確保（家族や支援者が一時的に離れることができるような配慮）

## 専門的な介護・医療・支援などが必要となる場合（例）

- 福祉避難所や病院への移動を検討する
- 要配慮者の状況を詳しく引き継げるよう、避難所での聞き取り記録の整理
- 福祉避難所等への移動手段について、福祉タクシーや施設の車の利用などの検討・確保



# 1. 要配慮者の地域ぐるみでの支援体制 - まとめ -

- 要配慮者それぞれの事情にあわせて必要な配慮や支援を行うことが必要です

## 2. 災害ボランティアの受入、被災地への応援協力

---

# 様々な活動を支援するボランティア

災害ボランティアは、被災地で多様な支援活動を行い、活躍しています

## 活動例

避難所でのお手伝い（炊き出し、洗濯など）

話し相手、子どもの遊び相手、託児代行

水害の際の泥出し

暮らしに必要な情報の提供支援、家の片付け

ペットの世話

暮らしのお手伝い（買い物、家事手伝いなど）

配食サービス、生活物資等の配布

交流機会づくり、イベント開催

暮らしの再建のための専門家の相談会

復興期における地域おこしのお手伝いなど



避難所での足湯の様子（新潟県刈羽村）  
写真提供：菅磨志保



家屋周辺の泥だしをしている様子（福井県）  
写真提供：蓮本浩介



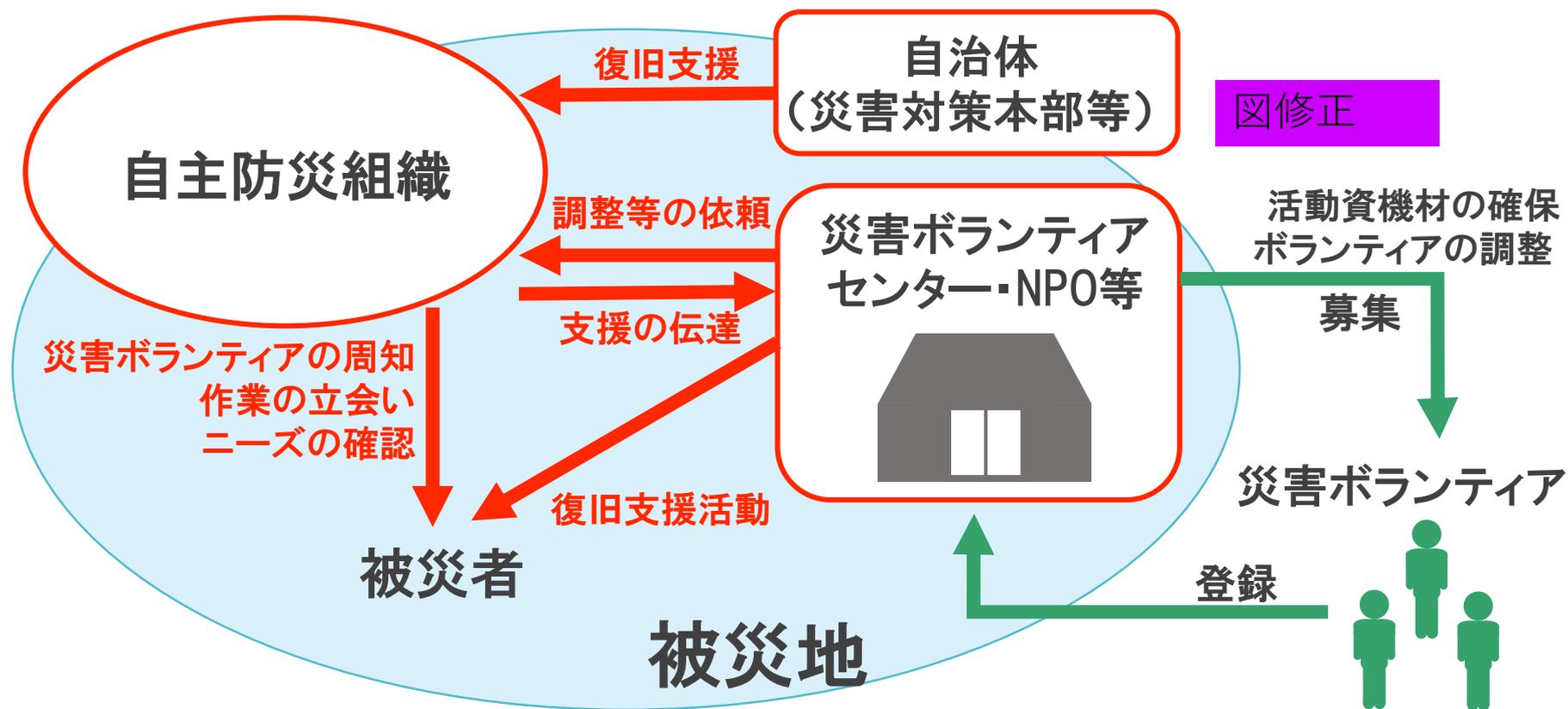
家屋内外の片付けをしている様子（宮城県）



現地に到着したボランティアバスの様子  
写真提供：特定非営利活動法人みえ防災市民会議

# ボランティアを受け入れる

時間の経過とともに支援のニーズが変わることを把握して、必要なボランティアを受け入れ、避難所運営や地域の復旧活動に協力してもらいましょう



## 2. 災害ボランティアの受入、 被災地への応援協力

- まとめ -

- 災害ボランティアによる活動は重要であり、平時からボランティアを受け入れるためのニーズを把握することが重要です

## まとめ

- 要配慮者それぞれの事情にあわせて必要な配慮や支援を行うことが必要です
- 災害ボランティアによる活動は重要であり、平時からボランティアを受け入れるためのニーズを把握することが重要です